



一般社団法人
宮城県理学療法士会
ニュース 2022 No.2
(通巻170号)

目次

巻頭言	1
2022年度のE-nudge委員会 報告	3
E-nudge × 国際交流支援等委員会コラボ企画	5
ブロック局の取り組み紹介	6
Column: 下から数えた方が早い	7
ボランティア報告	9
新生涯学習制度について	10
ホームページリニューアルしました!!	11
医療的ケアを必要とするお友達のことを子ども達に伝えたい! 紙芝居プロジェクトの支援	13
宮城県理学療法士連盟 活動報告	23

巻頭言

「オンラインミーティングでの、理性的理解と感情的な納得の共有」

一社)宮城県理学療法士会
会長 渡邊 好孝

【規制から自由へ】

新型コロナウイルス感染者の国内初確認から3年が経過しました。政府は今春を視野に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを現在の「2類相当」から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行する方向で検討を進めているようですが、一般的な季節性インフルエンザと同じように新薬の有効性と安全性が認められ、広く普及するまでには時間がかかりそうです。

政府は昨年末から、人の交流を伴う社会経済活動に関して、段階的に行動制限措置を緩和しています。しかし一方で、私たちに関連する職種においてはプロフェッショナルとして、気を緩めずに今一度、感染予防策を徹底し、一人ひとりが感染しないための有効な対策を実施し、高い使命感を持って日々の業務に真摯に取り組んでいきたいものです。

誰もがコロナの呪縛から解放され、当たり前前の自由を手に入れることを願うばかりです。

【伝えること】

感染対策の徹底と新しい生活様式の実践として、インターネットを介しての Web 会議、研修や学会、学校の授業などは、画面越しでのコミュニケーション(オンラインミーティング)が一般化してきました。ハイブリッド形式やオンデマンドも浸透し進化し続けています。

今でこそ、チャット機能やアイコンをクリックして意思を伝えることにも慣れてきましたが、当初は、内容の“理解と感情の共有”を実感する間もなく、進行されていくことに戸惑い覚えながら参加していました。

便利になった反面、言葉や表情によって真意を伝えることや汲み取ることの難しさを感じています。

心理学領域では「3V rule」または「7-35-55 rule」があります。これは、1971年に米国のカリフォルニア大学ロサンゼルス校の名誉教授であった、アルバート・メラビアンによって発表されました「メラビアンの法則」とも呼ばれています。

この法則によりますと、人と人のコミュニケーションにおいては、言語情報(Verbal)7%、聴覚情報(Vocal)38%、視覚情報(Visual)55%の比率で影響を与えるとされています。

話の内容を正しく理解したり伝えたりするためには、言葉そのものが持つ意味は重要になりますが、人は得てして非言語コミュニケーション(non-verbal communication)を優先して判断しがちで、言葉と口調・表情などが一致していない場合は、表情やパフォーマンスを優先して判断する傾向にあり、無意識のうちに、非言語コミュニケーションを重視しているということです。

【認知バイアス】

オンラインミーティングの場合、主に独りの空間と時間の中で、パソコンやタブレット端末、スマートフォン等の画面から、相互に情報を送り合っています。

いわゆる“顔出し”対面では、見られている・見ている、発言している・聴いている、双方がモニター画面の小さな枠組み(frame)の中での出会いとなりますので、リアルな対面と比べれば五感情報は視覚と

聴覚のみですから相手から感じる情報量は圧倒的に少なくなります。

認知の歪みが生じ易くなり、判断や解釈も変化していますので、さまざまな認知バイアスの現象を知ることは大切です。

【表情から】

例えば、初めは笑顔の方でも、内容によっては仏頂面になったり、不機嫌な表情や口調になったりされる分かりやすい方や、真逆に、表情も口調を変えずに淡々とされている方もおられます。

同じ画面の中には、魂が抜けたかのような終始無表情の方。眼光鋭く微動だにせず、ただ一点を見つめるハシビロコウ(鳥)のような方。赤べこ(会津若松の郷土玩具)のようにいつも agree(同感や賛成)リアクションで頷いている方。イライラしているのか落ち着きなく見える方。表情も話し方もそれぞれなので、とても興味深いです。

“きつと、私もそんな風に見え聞こえているのだろうか”と思いながらも、眺めては、Kendall の「MUSCLES Testing and Function」の顔面・表情筋の写真を思い出しています。

【発言から】

ときに、論理的で合理的で核心に迫り本質を突くかのような発言をされ、自身の流儀を貫くだけのように相手に思われてしまう方。立場によって希望の違いや見解の相違点を前面に押し出す発言をする方。問題や課題に対して経験則で発言される方。今までのやり方に固執する発言をする方。良かれと思って発言していることが慈悲的差別となっている方。〇〇ハラスメントを気にし過ぎてか、モヤっとした発言の方。取り留めのない発言で時間をジャックする方など、さまざまな方を見かけます。

【Framing effect】

情報の捉え方は人それぞれですので、相手が対面している自身をどのように感じているかを知ることは難しいものです。

一方で、そんなことは関係ないと思われる方もいるでしょうが、オンラインミーティングでは、お互いの発言や態度(言い方・振る舞い・構え)次第で、受ける心象も変わります。

状況によっては良くも悪しくもさまざまな認知バイアス(思い込み・認識のゆがみ)によって、思いもよらない結果になることがあります。フレーミング効果(Framing effect)によって意思決定が影響されてしまうことは否めません。

【考える基準点を変えてみる】

このような意味から、私は、誰もが“画面越しの接遇の嗜み”を学ぶ必要性を感じています。

オンラインミーティングの場で、参加者の心のざわつきを察知することは難しいものです。

進行役の方は、参加者の空気を読み(観察・現状認識)、対話の接点や着地点を意識(洞察・情勢判断)することや、発言者の意図を分かりやすくまとめ、合意形成のための打ち手(意思決定)を促すコーディネート能力が求められます。

参加者には、人間社会は何かしら互いに関わり合っている関係(相対関係)で成り立っているのですから、画面越しの限られた空間と時間の制約下では、自身の考える基準点をときには変えてみることも“理解と感情の共有”にとって大切なことだと思います。

当会の「E-nudge イベント」は好感の持てる雰囲気で行なわれていると思いますので、是非参加してみてください。

2022年度のE-nudge委員会報告

E-nudge委員会
支援理事 鈴木 博人/委員長 水戸 奈津美

当委員会は20代・30代の若手理学療法士の活動・交流を促進させることで、宮城県士会全体の活性化を図ることを目的とし、発足しました。その発足当初、次のような基本方針を立てました。

<基本方針>

- ・ 仲間とともに新たな一歩の可能性を考える
- ・ 新しいことに挑戦し続け、理学療法の楽しみ方を探求する
- ・ 多様性の理解から未来を創造する

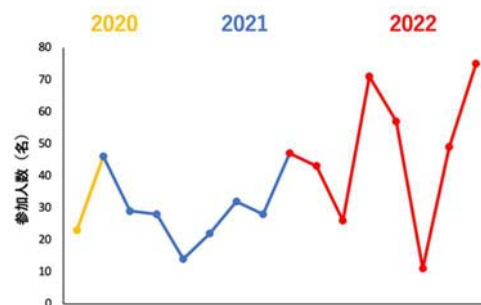


2019年12月の発足意向この基本方針に基づき、これまで多く企画を実施してきました。当初は3名の委員で運営しておりましたが、今では17名となりました。委員のアイデアはこれまでにないものばかりで、若い委員の柔軟な発想のおかげで、これまでにない企画を打ち出せと感じています。

<これまでの企画>

日時（参加人数）企画名

- ・ 2020/09/27(23)オンライン歓迎交流会
- ・ 2021/05/22(46)新人若手交流会
- ・ 2021/07/30(29)PT×ピラティス
- ・ 2021/08/11(28)夏休み企画!!リハ学生から先輩への相談会
- ・ 2021/09/14(14)ラフトークー理学療法士の主張 2021
- ・ 2021/10/22(22)TSUNAGUーWork & Life
- ・ 2021/11/25(32)TSUNAGUーSpecialists「なりたい自分を見つけよう」
- ・ 2021/12/13(28)TSUNAGUーInternational「海外活動とその後の多様なキャリア」
- ・ 2022/04/23(47)新人PT 歓迎会ー新たな仲間と繋がろう
- ・ 2022/05/29(43)新人・若手PT 交流会+ミニ勉強会
- ・ 2022/06/29(26)TSUNAGU×認定PT-10年目の先輩に聞いてみよう
- ・ 2022/07/29(71)TSUNAGUー源流の旅 エキスパートのルーツをたどる
- ・ 2022/08/19(57)夏休み企画!!リハ学生から先輩への相談会
- ・ 2022/09/24(11)ラフトーク 2022
- ・ 2022/10/28(49)エビデンス足りてますか?ーEBPTのすゝめー
- ・ 2022/12/14(75)スポーツ活動・国際活動経験ー東京オリンピックパラリンピックを通して(国際交流・支援等委員会との共同企画)



また、発足当初に三田村徳委員が担当していた国際協力推進部門は「国際交流・支援等委員会」として独立し、日本理学療法士協会や各種国際協力関連団体から情報収集しながら新たな活動を進めています。

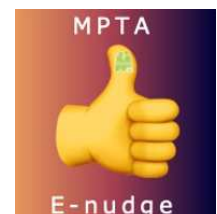
次年度は新たな体制を構築しつつ、これまで以上に E-nudge 委員会の特徴を生かした活動を継続する予定です。しかし、そのためには皆さんの新しいアイデアが必要です！！当委員会の活動に興味のある方、理学療法士の知り合いを増やしたいという方、ぜひご連絡ください！！お待ちしております！

【連絡先】

委員長 水戸 奈津美

E-mail mpta.future.since2020@gmail.com

※ かしこまった文章は不要です！「委員会に参加したいです！」という具合にラフに。



E-nudge × 国際交流支援等委員会コラボ企画

国際交流・支援等委員会、E-nudge 委員会
三田村徳

E-nudge 委員会第7弾企画として、国際交流・支援等委員会と共同し「スポーツ活動と国際活動経験 ～東京オリンピック・パラリンピックを通して～」を12月14日(水)に開催されました。全国から70名を越える参加者、事前質問も多数寄せられ、熱いご講演により盛り上がりました。ご参加された皆さま、ご協力を賜りました皆様、そして講師のお二人へこの場をお借りして、御礼を申し上げます。

スポーツ活動と国際活動経験
～東京オリンピック・パラリンピックを通して～

【講師】

片岡洋樹 氏
「スポーツ理学療法への関わり方
～東京パラリンピック経験を踏まえて～」
(仙台医健・スポーツ専門学校)

今野良紀 氏
「東京オリンピック経験と
国際活動への携わり方」
(仙台医健・スポーツ専門学校)



講師:片岡洋樹 氏(仙台医健・スポーツ専門学校)

「スポーツ理学療法への関わり方 ～東京パラリンピック経験を踏まえて～」

講師:今野良紀 氏(仙台医健・スポーツ専門学校)

「東京オリンピック経験と国際活動への携わり方」

〈参加者の声〉

「オリパラに必要な PT の能力や経験を知れて良かった」「悩みごとの解決に加えて、将来像を想像することができた点が特にプラスになった」「動き続けること、挑戦し続けること、発信することの大切さ」など、参加して良かったとの声が多数聞かれました。



2023 年度も研修・コラボ企画や交流会を開催して参ります。委員会に少しでも興味ありましたら、お気軽にご連絡ください。

E-nudge 委員会、国際交流・支援等委員は随時募集しております！

▶E-nudge 委員会(委員長:水戸奈津美) :mpta.future.since2020@gmail.com

▶国際交流・支援等委員会(委員長:三田村徳):mptainternational@gmail.com

ブロック局の取り組み紹介

宮城県理学療法士会ブロック局(泉区・青葉区・宮城野区・若林区・太白区:支部合同)
主催支部代表者名(順不同敬称略)大鹿糠徹、片岡洋樹、工藤渉、相馬正之、高村真司
報告者 宮城県理学療法士会理事 石島孝樹

令和5年1月21日(土)、宮城県理学療法士会ブロック局合同講習会を開催しました。今回の講習会では、「運動器疾患に対する実践的な評価とアプローチ法、～動画でみるリハビリテーション介入時のポイント～」と題して、仙台市の5つの支部合同で実施しました。村木孝行氏(東北大学病院)、菅田晃平氏(イムス明理会仙台総合病院)、白石健氏(松田病院)の3名の講師をお招きし、実技を中心とした Zoom 配信を行いました。配信にあたり、専門の業者にご協力頂きました。複数台のカメラを使用し、講師の動きを分かり易く映し出す他、実技に合わせて解説スライドを表示する等、高度な技術を用いて配信しました。また、配信時にチャットで頂いた受講者の質問に対して、座長の片岡洋樹氏(仙台医健スポーツ専門学校)が講師へ一問一答の形で問う「質疑応答」で解説し本会を終了しました。

今回は、初めての合同講習会ということもあり、支部長が連携し講習会の準備から運営まで活動を行いました。また、宮城県理学療法士会会長の渡邊好孝氏、ブロック局長の羽田智大氏をはじめ、沢山の士会役員からバックアップして頂き、準備段階から開催まで「取り込み易い素地」を整えて頂きました。今回の講習会では、幾つかの課題もありましたが、学びも多く大変収穫の多い講習会であったと考えております。今回の経験を踏まえ、若い世代へ上手にバトンを渡すことができるよう、今後も支部長が中心となって連携を図ることで地域の活性化に繋がることを期待しています。



Column: 下から数えた方が早い

「宮城県の健康課題」:「MPTA」「PT」に見えてくること 社会的課題の解決に取り組みましょう

【スマートみやぎ健民】

「宮城県の健康課題」は県庁ホームページに掲載されています。特にメタリックシンドローム該当者及び予備群を合わせた割合が平成 20 年度から全国ワースト2位という危機的な状況となっています。特徴は、肥満が多い・メタボが多い・歩かない人が多い・脳血管疾患が多い・喫煙者が多い・塩分過剰などです。Web 検索は「宮城県の健康課題」(令和 3 年 7 月更新)宮城県保健福祉部健康推進課を参照してください。

県民の健康課題の改善のために、企業・保険者・関係機関・団体・行政等の参画と協働により、県民の健康と幸せを実現するための県民運動を推進することを目的に「スマートみやぎ健民会議」を平成 28 年(2016 年)2 月に設立しました。

宮城県理学療法士会(MPTA)は、平成 29 年度に会員登録(医療保健関係機関・団体)をしました。スマートみやぎ健民会議・宮城県公式 Web サイトには、一般社団法人宮城県理学療法士会のスマートアクション宣言は「私たちは、病気や障害そして高齢となっても、心が喜べるヘルスプロモーション活動に取り組みます。(県民向け)」と掲載されています。また、MPTA の皆様の施設等のスマートアクション宣言も掲載されていますので検索してください。

【Collective Impact】

課題解決の取り組み(practice)のために、誰が何をどのようにするかを考えなければなりません。つまり、主体・目的・方法です。例えば、理学療法士(主体)が、宮城県の健康課題解決(目的)に向けて、理学療法(方法)によって課題を解決します。となりますが、多様化・複雑化・重層化する社会課

題の解決という大きな取り組みに対して、単体の組織だけで解決することは難しいのが現実です。

そのため、行政・自治体・NPO・企業などの参加者が、それぞれの“くくり”を超えて、異なる強みを持つ団体同士が共通の課題に対し協力し、領域横断的な視点から解決する取り組み(集合的な影響・集合的な成果)が推進されています。この概念は 2011 年より、コレクティブインパクト(Collective Impact)と言われるようになり、現在では相互利益を生み出す仕組みとして定着しています。コレクティブインパクトを成立させる条件として、通常の協働や協業とは異なる 5 つの特徴が備わっていることが求められています。

【ブロック局支部活動】

宮城県の健康課題より、MPTA や理学療法士(PT)が「できること・やるべきこと」といった仕事へのヒントも見えてきます。また、私たちの得意分野でもあるので、MPTA ブロック局・14 支部活動計画のヒントになると考えます。各支部が地域の実態から MPTA を盛り上げる活動をしていただくと、会員同士の成長支援等、「誰一人取り残さない MPTA」活動にも繋がると期待しています。

地域課題への支援活動が社会課題の解決に向けた取り組みの一端を担っていることの大義となりますし、その一端を担うことで仕事に対するモチベーションも高まるのではないのでしょうか。

【キャッチフレーズ】

メタリックシンドロームは、1998 年に WHO が診断基準を発表したことによって、ロコモティブシンドロームは、2000 年～2010 年は「骨と関節の 10 年」「運動器の 10

年」世界運動キャンペーン、そしてフレイルは、日本老年医学会が 2014 年に提唱した概念です。いずれも適切な治療や予防を行うこと、健康な状態を保つこと、要介護状態とならないこと、介護状態からの脱却することを目的とする取り組みと言えます。

「メタボ」「ロコモ」「フレイル」のフレーズを用いての予防への取り組みは、広く市民にキャッチされ、病気や障がいの予防、老化現象や運動器の健康に対する認識も高まっています。

MPTA もトレンドに合わせたキャッチフレーズを用いて活動を推進してきました。そもそも PT の得意分野ですので、フレーズが変わっても人の身体と生活に対するアプローチの根本は変わりません。ただし、飽きられないこと、陳腐化されない新鮮なアプローチで“映える工夫”やモデルチェンジを意図的に行うことが必要になります。

自ら Change(変化)するからこそ Chance(好機)が生まれ、新たな領域への Challenge(挑戦)によって独自能力は磨かれると思います。

MPTA は、前述した、スマートアクション宣言で「私たちは、病気や障害そして高齢となっても、心が喜べるヘルスプロモーション活動に取り組みます。(県民向け)」としています。これはキャッチフレーズではありません。組織目的(志)です。陳腐化はしていないと思いますが、もっと、県民の皆様に喜ばれる取り組みにするために、目標を具体化する時期だと考えています。

【伸びしろの大きい仕事】

人生 100 年時代、一億総活躍時代と言われる日本人にとって、健康に関する好奇心(興味・関心・危機感・快感・期待感)が刺激され、すべての人々の行動が変容することは好ましいことです。

宮城県民の健康は全国的に見れば下から数えた方が早い。見方を変えれば、MPTA や PT にとっては伸びしろの大きい環境で、遣り甲斐のある仕事ができます。14 支部活動のヒントになれば幸いです。

「メタボ」「ロコモ」「フレイル」を意識して生活すること。

このことが地球環境にも良いとされています。そこに「MPTA」「PT」が関わることの意義や理由を語るができるようになりましょう。

Yoshitaka.W

ボランティア活動報告

予防・健康づくり部 部長
岩淵 隆俊



毎年、11月は仙台市介護予防月間「めざそう！アクティブシニア のぼそう！健康寿命」をテーマに介護予防や健康づくりに関する様々なイベントが開催されております。宮城県理学療法士会に於いても「予防と健康づくり部」を中心に共済事業として仙台シルバーセンターでのオープニングイベント及び市内3ヶ所の市民センターでの介護予防に関連する講話や体操、体力測定を実施しております。

今年度も、11月6日に開催された「元気力アップフェスティバル」及び、榴ヶ岡、黒松、福沢の各市民センターにて活動して参りました。どの会場に於いても、参加される地域住民の方の健康寿命や介護予防に関する「意識の高さ」が肌を通して伝わってきます。また、市民センター担当者の方からも「参加された皆さん非常に満足されています」とご意見を頂き、参加した部員やボランティアの方の満足感や達成感も高くなっていました。

一方で、部員からは「1年に1回だけではなく、複数回開催する必要がある」、「実際に参加された地域の方は、普段から意識が高いが、この場に参加しない又はできない方にも関わっていききたい」という声が多く挙がっています。実は、このような意見は部員側だけではなく、市民センターの方や事業に参加された地域の皆さんからも聞こえてきます。これらは今後の課題として取り組んでいくべきものであると感じています。

普段、病院や介護保険関連の施設等で様々な支援を行っていますが、地域に出向いて「理学療法士」としての専門性を発揮する機会是非常に貴重な経験の場であると感じています。普段は利用者さんや患者さんという、何かしら支援を必要としている方に対して治療や支援を行っています。その為、予め、基本情報や経過、社会的背景など情報がある程度整理されています。しかし、このような場では、所謂、「情報ゼロ」の状態から体力測定や評価を行い、最終的には痛みや動作のこと、生活上の困りごとに対するアドバイスまで行います。その為、普段以上に相手の表情や口調、動作をみる際の集中力・注意力が求められます。疲労感や普段の仕事以上かもしれませんが、確実に「スキルアップ」には繋がっていると感じます。

今後、部としても11月の介護予防月間での関わりだけではなく、1年間通して支援する必要性を強く感じており、活動内容について検討しています。その際、部員の団結はもちろんのこと、部員とそれぞれの市民センター周辺で働いている県士会員や理学療法士との連携や繋がりが重要になると考えています。導入部分は部員が橋渡しをしたとしても、その後の継続的な支援は是非、その地域で活躍している理学療法士の方に担って頂きたいと考えています。臨床の現場から一步、地域に踏み出してみると、「いま、理学療法士が求められていること」を直に感じると共に、自分自身のやる気にも繋がってくるのではないかと思います。是非、多くの県士会員の皆さんにこの充実感と緊張感、ワクワク感を味わって頂けると嬉しいです。



新生涯学習制度について

教育局生涯学習部部長
 釦明佳代子

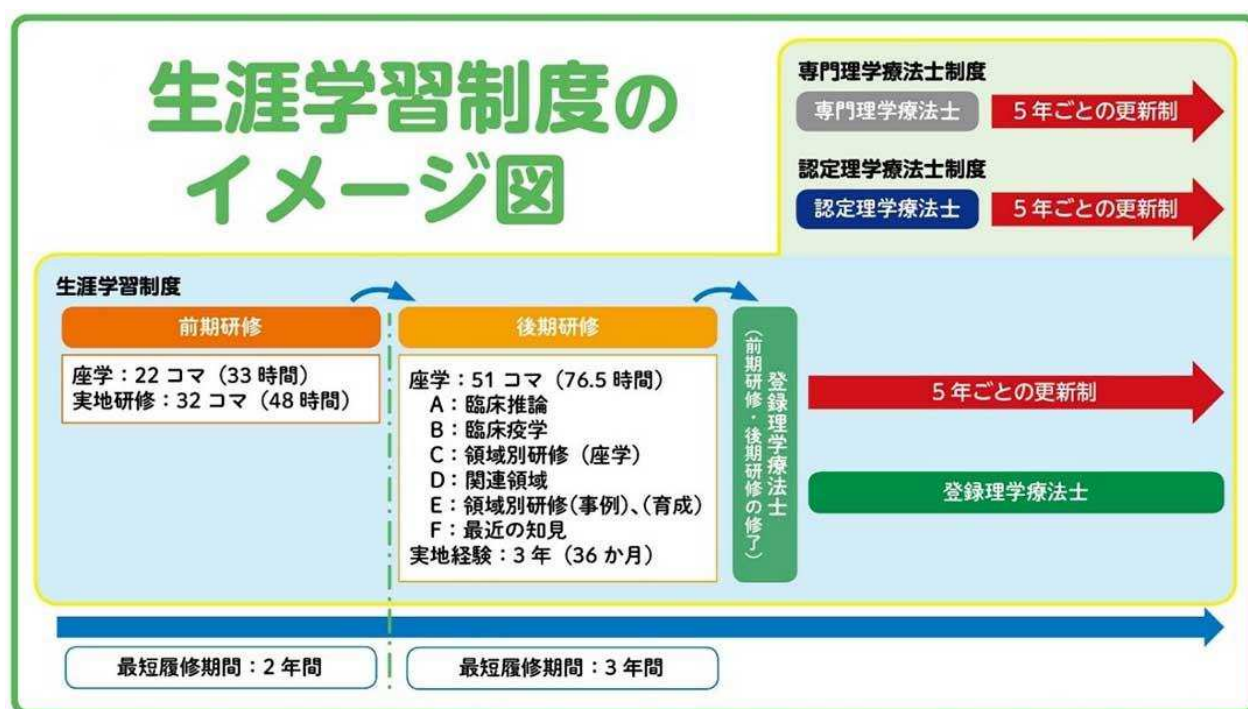
2022年度より新しい生涯学習制度が開始となりました。

多様化するニーズに応えることのできる理学療法士を育成し、生涯にわたり知識・技術の維持・向上を図ることで、理学療法士の質を保証する制度です。「登録理学療法士」は卒後5年間に義務教育的な位置づけとし、前期研修・後期研修の受講を通して多様な障害像に対応できる能力を有するジェネラリストの育成を行います。修了者は「登録理学療法士」となり、5年ごとの更新が必要となります。

また、登録理学療法士を基盤として、より高い専門性を兼ね備える「認定理学療法士」、「専門理学療法士」の制度も構築されました。認定・専門理学療法士は登録理学療法士を取得・更新していることを前提とし、5年ごとの更新が必要となります。

詳しくは日本理学療法士協会ホームページより、「生涯学習制度関連動画」をご参照ください。

https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/movie_list/



宮城県理学療法士会教育局生涯学習部では
 ・登録理学療法士取得を支援：前期・後期研修班

(各施設での士会承認症例検討会の開催支援を行う予定です)

- ・認定・専門理学療法士取得を支援：認定専門理学療法士班
- ・登録理学療法士、認定・専門理学療法士更新ができる研修会の開催など：登録理学療法士班

以上3班の体制で皆様の生涯学習を支援しています。不明な点等は生涯学習部までお問い合わせください。県内の多くの会員が参加されることをお待ちしております！

ホームページリニューアルしました！！

この度、県士会ホームページを全面的にリニューアルいたしました。
今回は、新しいホームページの特徴を紹介させていただきます。

1) 画像を用いたお知らせ

これまでお知らせは文章や pdf でお伝えしておりました。今回、トップ画像によるお知らせも可能にいたしました。また、「READ MORE」をタップいただくことで該当ページへアクセスすることもできます。



2) トップアイコンの設置—よく利用するページへアクセス性向上

こちらからすぐにご希望ページにアクセスいただけます。クリックまたはタップした状態でアイコンを移動させ、希望するアイコンを選択することができます。理学療法ガイドラインへのアクセス方法や、各種書類のダウンロードもこちらからアクセスできるように今後アップデートして予定です。



3) 最新の会員用お知らせは見やすく上段へ移動

以前、トップページの下段にあった「会員用お知らせ」を上段に移動させました。「READ MORE」を選択いただくと過去のお知らせも確認できます。

MEMBER INFORMATION 会員用お知らせ

SHOW ALL

2022.12.05
E-nudge×国際交流支援等委員会企画 スポーツ活動と国際活動経験～東京オリンピック・パラリンピックを通して～

2022.12.05
脳卒中認定理学療法士 一指定研修カリキュラム 開催のお知らせ

2022.12.05
仙台慢性疼痛研修会 研修会ポスター

READ MORE

「会員用お知らせ」へ掲載ご希望の方やご意見等ございましたら下記までご一報いただければと存じます。

宛先
宮城県理学療法士会 広報部
佐々木 友也(仙台リハビリテーション病院) 宛
アドレス:news.edit※pt-miyagi.org (※を@に変えてご連絡ください)

4) 月間スケジュールを確認できるように変更

研修会の開催日時がカレンダー形式で確認できるようにいたしました。こちらへの掲載を希望の方は、下記までご一報いただければと存じます。

SCHEDULE
月間スケジュール

2022年10月

月	火	水	木	金	土	日
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

7:30 PM E-nudge
企画第6弾:エビ
ダンス足りてます
ゆ?

7:00 PM 2022年
度第6回MPJA理事
会

身体運動学から捉
えるバランス制御
と理学療法アプロ
ーチ

まだまだ更新途中ではありますが、皆様にご利用いただければ幸いです。また、より利用しやすいホームページにできるよう、引き続き取り組んで参ります。ご意見・ご要望などございましたら、ご一報いただければと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

宛先
宮城県理学療法士会 学術・教育局担当理事
鈴木 博人(東北文化学園大学) 宛
アドレス:hiroto-s※rehab.tbgu.ac.jp (※を@に変えてご連絡ください)

医療的ケアを必要とするお友達のことを子ども達に伝えたい！ 紙芝居プロジェクトへの支援

宮城県理学療法士会 理事
新山 正都

医療的ケア児等コーディネーター支援協会が取り組む「医療的ケアを必要とするお友達のことを子ども達に伝えたい！」紙芝居をつくって、届けるプロジェクトの実行責任者である遠山裕湖氏(宮城県医療的ケア児等相談支援センターちるふあ)よりプロジェクトについてお話をいただきました。

プロジェクトについて

医療的ケアを必要とするお子さんが保育園に入ってお友達と仲良くなると、お友達は医療的ケア児の管や医療機器が気になります。保育士さんに、「先生あの子のお鼻にあるのはなに？」と質問する子もいます。そんな時多くの保育士さんは、答えにちょっと困ってしまうそうです。「なんて説明したらいいんだろう？」この紙芝居の構想は、現場の保育士さんや、お友達に関心を寄せ、理解しようとしてくれている子ども達と、医療的ケアを必要とする子ども達との懸け橋として、保育士さんが使えるようにと考え生まれました。

子ども達が理解できる言葉と絵で紙芝居を作成し、これから医療的ケアを必要とする子ども達が通ってくる保育園の保育士さんに読んでもらいたい。紙芝居を必要としている保育園、幼稚園に紙芝居を届けたい。

宮城県理学療法士会はこのプロジェクトに賛同し、クラウドファンディングにて支援をいたしました。

この活動が子ども達の懸け橋となるよう、応援いたします。

◆支援したプロジェクト

医療的ケアを必要とするお友達のことを子ども達に伝えたい！

◆リターン内容

紙芝居買って応援コース 5,000円×2
合計 10,220円(内システム利用料 220円)



宮城県理学療法士連盟 活動報告

宮城県理学療法士連盟会長
羽田 智大

いつも宮城県理学療法士連盟の活動にご理解とご協力頂きましてありがとうございます。
すでにご存じのとおり、自民党の参議院議員の辞職に伴って理学療法士の田中まさし氏が繰り上げ当選となりました。24年にはトリプル改定もあり、国政の場に組織代表議員がいることに大きな喜びを感じています。どうぞ今後とも理学療法士連盟の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

FAXニュース配信について

◇広報部では研修会などのご案内を GIMP ニュースとして会員各施設に FAX で配信しております。

現在 FAX が届いていない施設や登録番号が変更された施設の代表者の方はお手数ですが、下記までご連絡頂きますようご案内申し上げます。

また代表者(宛名)が変わられた施設もご連絡頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会ニュースは県士会ホームページにてカラーで公開されています!!

是非ご覧ください。

宮城県理学療法士会 広報部

宛 先: 〒981-3341 富谷市成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 高橋 歩

TEL : 022-351-8118 FAX : 022-351-8126

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切: **2023年6月15日まで**

発行日: 2023年2月15日
発行: 一般社団法人宮城県理学療法士会
代表者: 渡邊 好孝
編集: 佐々木友也 高橋 歩
印刷: 合同会社P・プロGRESS
〒983-0021 仙台市宮城野区田子2-33-17

